

家庭のライフラインエネルギー



LPガスは身近なエネルギー!

液化された状態で容器に入っているため運搬が容易で、国土の全域をカバーしています。

家庭用 2,500万世帯

総世帯数における46%でLPガスが使われています。

業務用 100万件以上

レストラン、飲食店、病院、ホテルなどで使われています。

産業用 10%

日本の産業用エネルギーの10%をLPガスが担っています。

自動車用 25万台

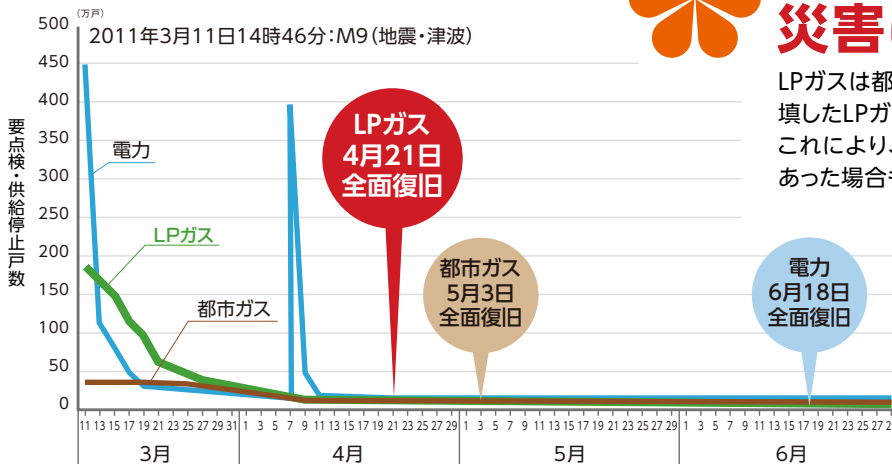
タクシーは全車両の95%、LPガススタンドは約1,500ヶ所。拠点インフラも万全です。

LPガスは、
地域に密着した
分散型
エネルギー



東日本大震災におけるライフラインの復旧状況

出所：内閣府資料、各県エルピーガス協会・高圧ガス保安協会、ヒアリングより



LPガスは災害に強いエネルギー!

LPガスは都市ガスや電力などの系統供給とは異なり、容器に充填したLPガスを各戸に配送をする「分散型」供給を行っています。これにより、配管など供給設備の点検も短時間で済み、異常があった場合も迅速に復旧させることができます。

左図は、東日本大震災後の各インフラ(電力、都市ガス、LPガス)供給不能個数の推移を示したものです。この復旧状況を他の主要なインフラと比較すると、LPガスの復旧の早さが改めて確認できます。大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県では津波で建物や損壊または流されてしまったもの等を除いては、地震発生後約3週間で大方の復旧が完了し、電気および都市ガスよりも早い時期に完全復旧を果たしています。

災害に強いLPガス LPガスは災害対策に有効です!

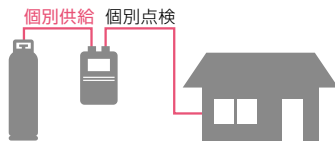
LPガスだからできる生活エネルギーの軒下在庫



家庭の軒下には通常2本のボンベを設置しており、災害時も1本で約1か月のガスが使用できることを想定しているため、いざという時の備えとして役立ちます。

LPガスは個別(分散型)供給だから迅速な復旧

1戸単位での点検や安全確認ができる上、配管が短く異常があれば即修理可能ですので、復旧まで短時間で。



避難所等への燃料供給対応に最適

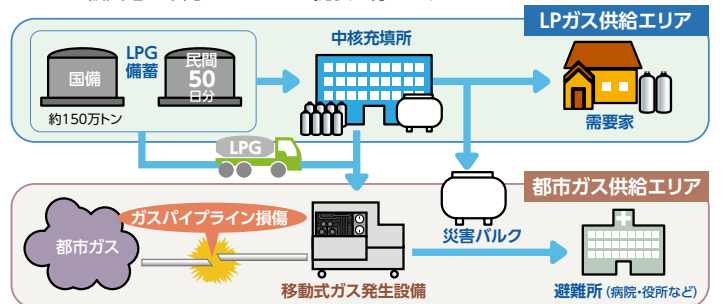
災害時に電気や都市ガスなどのライフラインが寸断された場合でも、LPガスは迅速に供給できるエネルギーです。避難所等での生活支援のための「災害対応型ガスバルク供給システム」や「炊き出しセット」をはじめ、LPガスでエンジンを回して発電する「LPガス発電機」など様々な安心の設備が用意されています。



炊き出しセット

都市ガスへのバックアップ

中核充填所は被災地域に対して、都市ガス網の代替として、LPガスを安定的に供給できる体制を構築することを目的として、全国に344カ所設置されており、防災協定に基づいて被災地へ率先してLPガスの提供を行います。



LPG車の活躍

トラックに発電機とLPガス容器を搭載し、災害時・停電時における非常用電源として機動的に活用できます。



LPガス仕様移動電源車

劣化しない

LPガスは劣化しないので、長期にわたって使用が可能です。

震度5以上でマイコンメーターが自動的に遮断



マイコンメーター